

中央大学は毎年夏休みに「オープンキャンパス」を開催している。

「オープンキャンパス」とは、中央大学を志願する高校生たちが中央大学に直接足を運んで、大学を丸々体験できるイベントのことだ。

今年は7月30日(日)、8月24日(木)、8月25日(金)、9月16日(土)の計4回開催された。計4回の来校者総数は1万7857人にもなった。昨年より4000人ほど多く、過去最多のにぎわいだった。

「魅力ある中大」受験生も好感

この日のために、大学のスタッフは半年以上かけて、入念な準備をしている。

教授はもちろん、在学生、職員大勢のスタッフが協力して、高校生を迎える。

以下、報告を兼ねて当日のプロログラムをいくつか紹介する。どんなイベントか、雰囲気を感じてもらえれば幸いである。

【模擬授業】

大学の最大の魅力は教授による面白い授業。「『ダ・ヴィンチ・コード』で西洋史する」、「政策ディベートを

学ぶ…性犯罪者情報を地域住民に提供すべきか」…タイトルだけで聴いてみたくなる授業の数々が並ぶ。

今年の目玉は、永井和之総長・学長が自ら「好意と法——裏切られた好意・求められた好意」と題して模擬授業を行なったことだろう。学長が自ら行う模擬授業は、初の試み。当日の様子は日本経済新聞でも写真入りで紹介された。

【個別相談コーナー】

すべての学部が、学部ごとにブースを設けて、高校生の質問や相談に丁寧に対応する。

大学生は当たり前と思っていることでも、高校生には全く知らないことだったりもする。真面目な高校生は質問事項を紙に一覧表に書き上げて、全ての疑問点を解消しようと片っ端から質問してくる。相談員となるスタッフも気が抜けない、気合が入るコーナーでもある。

約1万8000人が来校 過去最多の高校生でにぎわった 「06年オープンキャンパス」

【サークルのパフォーマンス】

和太鼓サークル「鼓央」、チアリーダー部「Spirits」、アカペラサークル「Do it your voice」が華やかなパフォーマンスを繰り広げた。

今年からクレセントホール(9号館)で行なわれた初企画。来場した受験生が最初に体験するイベントだった。2200人収容するクレセントホールは高校生で満員になり、部員にとっては日頃の成果を発揮す

設を直接見ながらいろいろ説明してもらいたいという高校生は多い。この企画は、学生スタッフが約50分間かけて、ふだん学習する学部棟や図書館、食堂などを学生生活の様子を交えながら、案内する。

初対面の人たちを一時間近く連れて歩くわけで、経験豊富なツアースタッフは、参加者を飽きさせないようにネタをいくつも持っていて、既にベテランの囃家の様な雰囲気醸し出している者もいる。

広報課に登録している学生スタッフは約30人。当日は全員支給された赤いシャツを着て来訪者の応対にあたった。それに加え今年はプロジェクトコップの学生も新たに企画に協力してくれた。

(広報課 佐藤健士)

2006年度オープンキャンパスの来校者数

7月30日(日)	7379人
8月24日(木)	4665人
8月25日(金)	3937人
9月16日(土)	1876人

計 17857人

(昨年13716人)